

会議録

会議の名称	第2回 部活動地域展開検討委員会
開催日時	令和 6年 3月 18日 (月) 15時～16時45分
開催場所	市役所5階 5-4. 5会議室
出席者	<p> 窪田委員長、赤羽副委員長、宮崎委員、堀池委員、宮坂委員、 谷本委員、友田委員、高橋委員、太田委員、山岸委員、木島委員 高木委員、吉野委員 </p>
事務局	<p> 教育部教育指導課 下斗米課長、森谷副主幹、阿部副主幹 </p>
議題	<p> 1 部活動地域移行の方向性について 2 地域移行に関する事例紹介について </p>
資料の名称	1 第2回部活動地域移行検討委員会スライド資料
会議の結果	
議題1	部活動地域移行の方向性について説明、質疑
議題2	他自治体における地域移行に関する事例紹介
議事の概要	
事務局	<p>部活動地域移行の方向性について説明。(資料1参照)</p> <p>・部活動という形ではない、地域の子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に親しむことのできる持続可能な環境の構築</p>
事務局	<p>他自治体における地域移行に関する事例紹介。</p> <p>～協議における主な意見等～</p>
委員	活動場所の移動手段はどうするのか、車の迎えなどあるのか
事務局	<p>徒歩移動、自転車移動、保護者の送迎が考えられる。活動開始時間によっても変わってくる。</p>
委員	自分の学校で活動できるならいいが、保護者が送迎となるとどうか。とすると、自転車で登校していいのか、など検討が必要では。
事務局	そういったことも今後の検討課題と認識している。
委員	中学校を対象としているのか小学校を対象としているのか。文化団体としては、絵画、音楽、華道、書道など協力できる。今まで大人で楽しんでいたものが子どもに教えるとなるとどうなるのだろうか。
事務局	中学校中心で考えている。小学校からの参加、ということも場合によっ

ては想定される・教える教わるという関係だけでなく、一緒に楽しむ、という考え方もある。

委員

生徒数の推移を考えると現状のまま少し改善するだけでは難しい状況。楽しんでやりたい生徒やしっかり指導を受けたい生徒がいる。指導者の方や兼職兼業の方などが関わりたい形で関わっていけることが良さだと思う。どのくらいの受け皿が現状あるのかを確認していくことが大切。

委員

様々な分野に参加できる良さがあると思う。現状では学校にある部から選ぶが地域移行にともない選択肢が増えることが考えられる。施設面について、地域の方がセキュリティまで管理できるような工夫が紹介されていたが、そのような環境を整えられると良いと思う

委員

平日については難しさを感じている。まずは休日から進めていく。全て一斉に始めるのではなく、人数が少ないなど必要に迫られたところから始めるなども考えられる。

委員

部活をやっている教員としての意見。地域移行しても携わりたいと考える先生は多いのではないか。地域移行の際にそのような先生をどう生かすか。部活から学ぶことは多い。ハード面、時間面等、課題を確認しながら進めて行きたい。

委員

顧問と外部指導者のやり取りについてしっかりやらなければいけない。指導者の方とだけコンタクトをとって、学校生活と切り離すことはできないように思う。部活をしたくて先生になっている人も多い。吹奏楽部の視点から言うと、楽器をどう運ぶのかという心配がある。

委員

安全面が大切。外部指導者が安定した人だといいなと思う。スポーツクラブや文化団体等、どこに何があるのか分からない。選択肢を整理すること。

事務局

スポーツクラブや文化団体等、何があるか周知していくことは必要と思う。

委員

部活動という形ではない、という考え方を変えなければいけないとのことだが、現実的には部活動の形で大会等がある。具体的にどうすればいいのか。例えば座間市としてのモデルケースをいくつか作るか。

委員

土日に部活をしたくない先生が全国的に多数いる。一方、部活動をしたくない先生もいる。そこは兼職兼業で対応。何年で計画して進めると決めて

進める必要がある。

委員

上を目指す子もいれば仲間づくりの子もいる。部活動は運動ができなくても文化部でというように仲間づくりや社会性を身に付ける場もある。地域に活動場所ができて活動するのもいいが、それが負担になるようだと何もやらずに家に籠ってしまうと残念に思う。

委員

先生や子ども、保護者へ、部活動地域移行の考え方について伝えていく必要がある。